

社会資源 編

ねらい: 認知症の人を取り巻く、医療、介護及び地域の社会資源等の活用の重要性を理解する

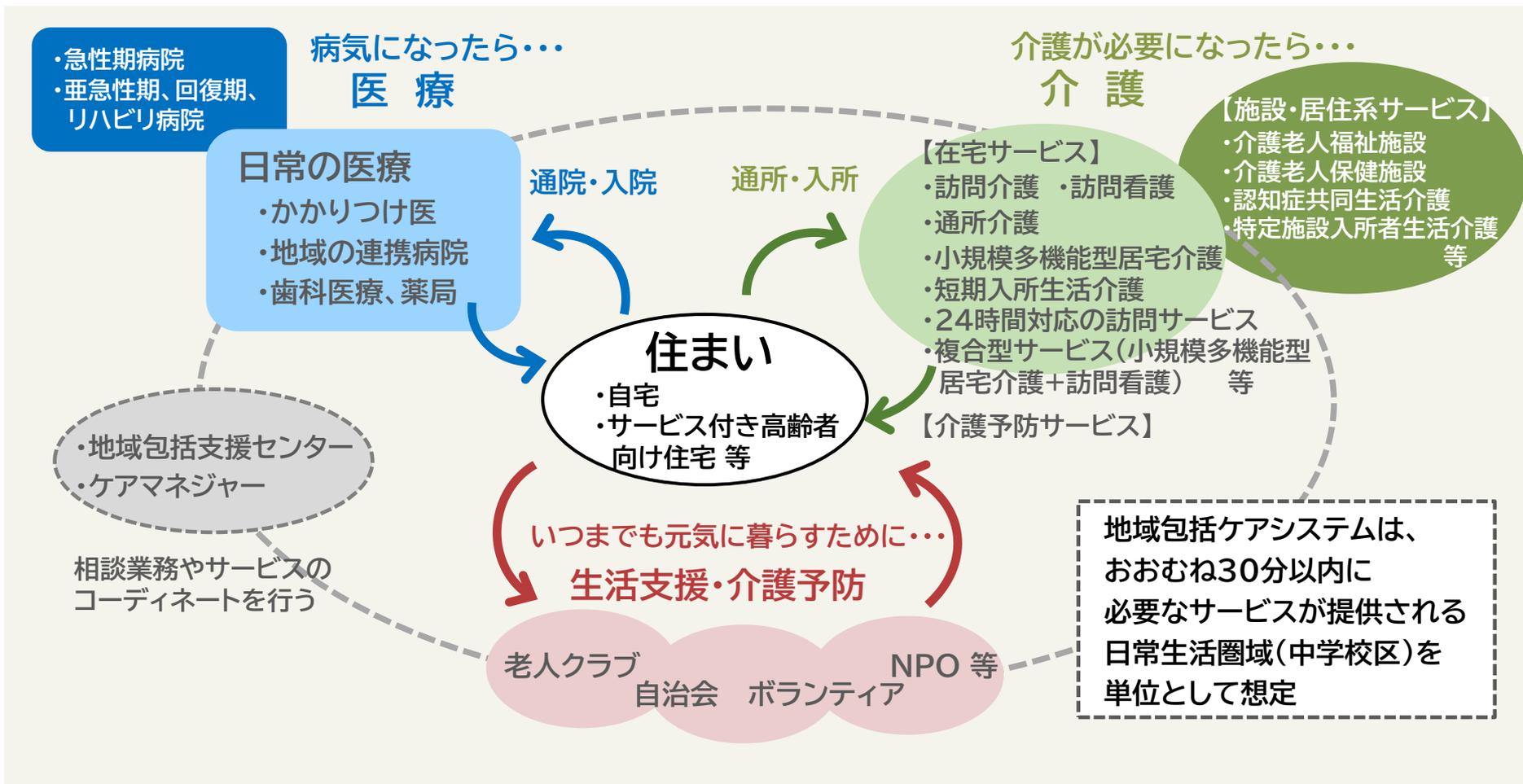
到達目標:

- 認知症の人を支える施策や仕組みを理解できる
- 活用できる制度等について、本人・家族に説明できる

地域包括ケアシステム

〔資源1〕

住まい・医療・介護・予防・生活支援 が包括的に提供される 地域包括ケアシステムの実現により、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる

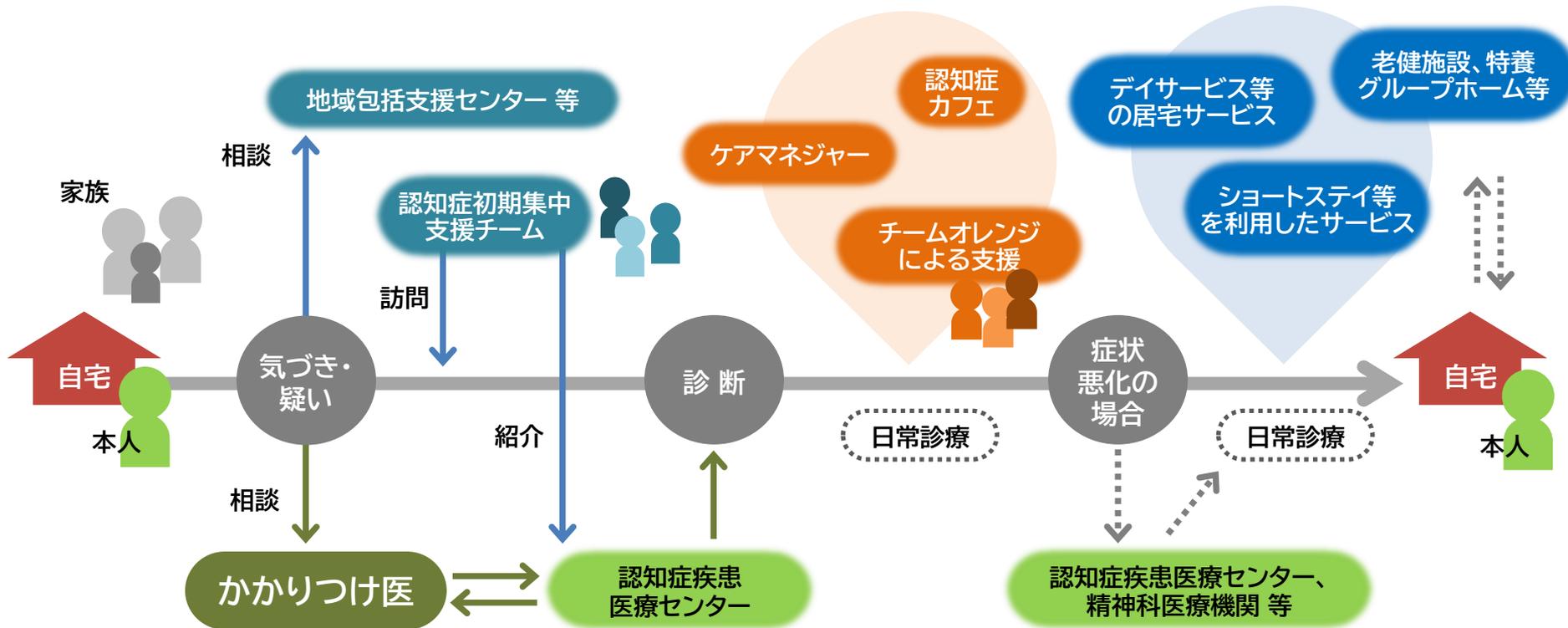


認知症ケアパス

〔資源2〕

『認知症発症予防から人生の最終段階まで、認知症の容態に応じ、相談先や、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受ければいいのか、これらの流れをあらかじめ標準的に示したもの』（認知症施策推進大綱）

認知症ケアパスのイメージ(一例)

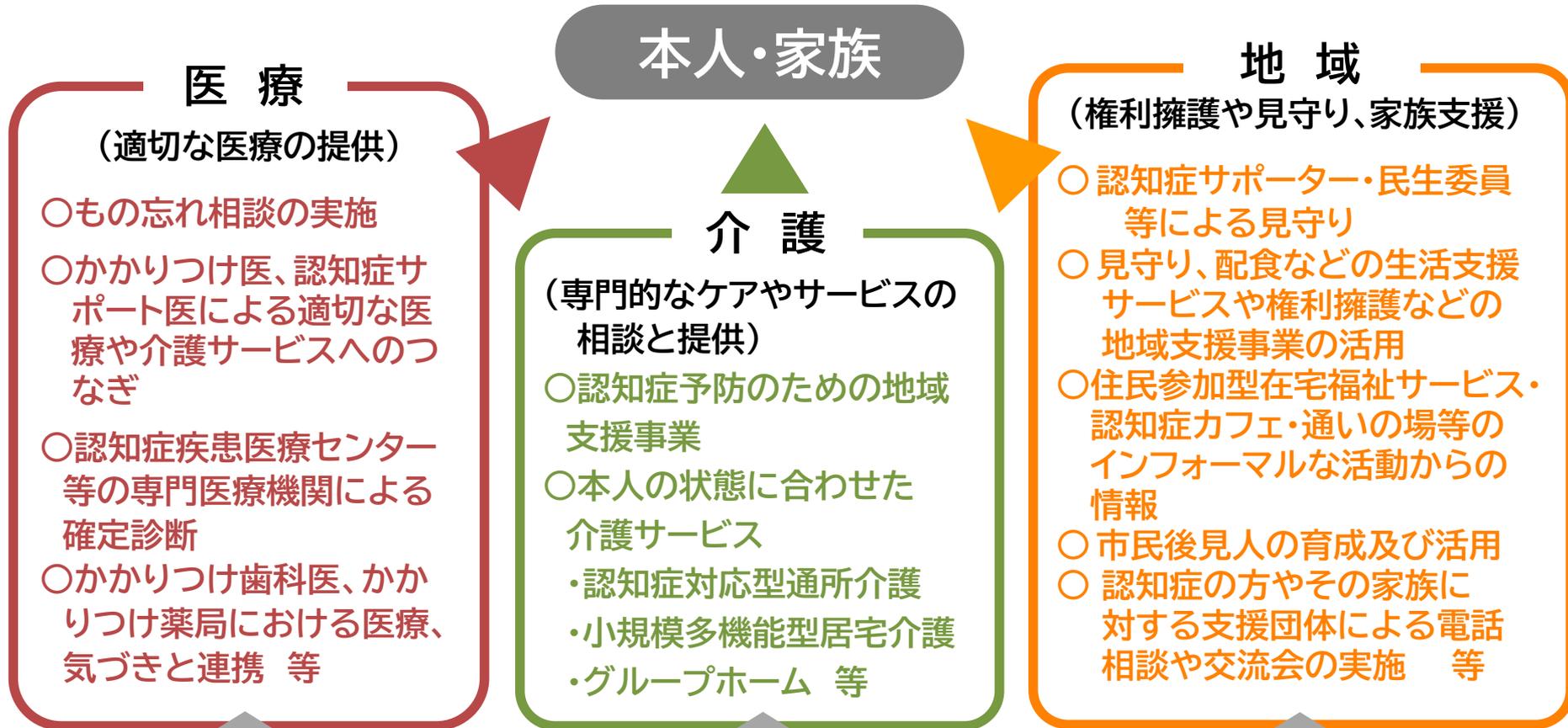


認知症の人への支援体制

～医療・介護・地域の連携～

〔資源3〕

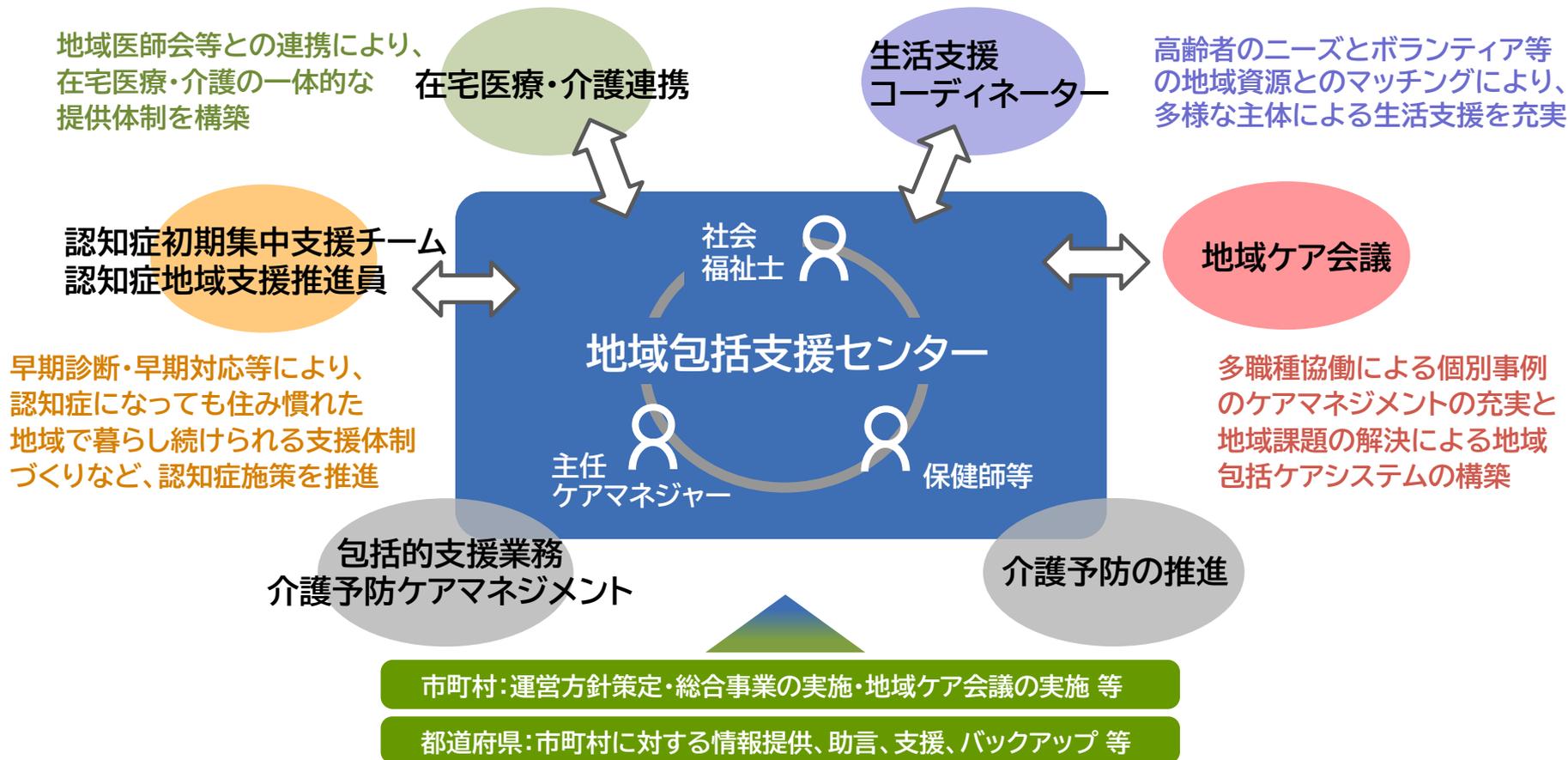
認知症の人やその家族の暮らしを支えるサービスは多方面にわたり展開



市町村は必要な介護サービスを確保するとともに、それぞれの分野の活動支援、推進を図る

地域包括支援センター

〔資源4〕



地域包括支援センターの機能強化に向けて

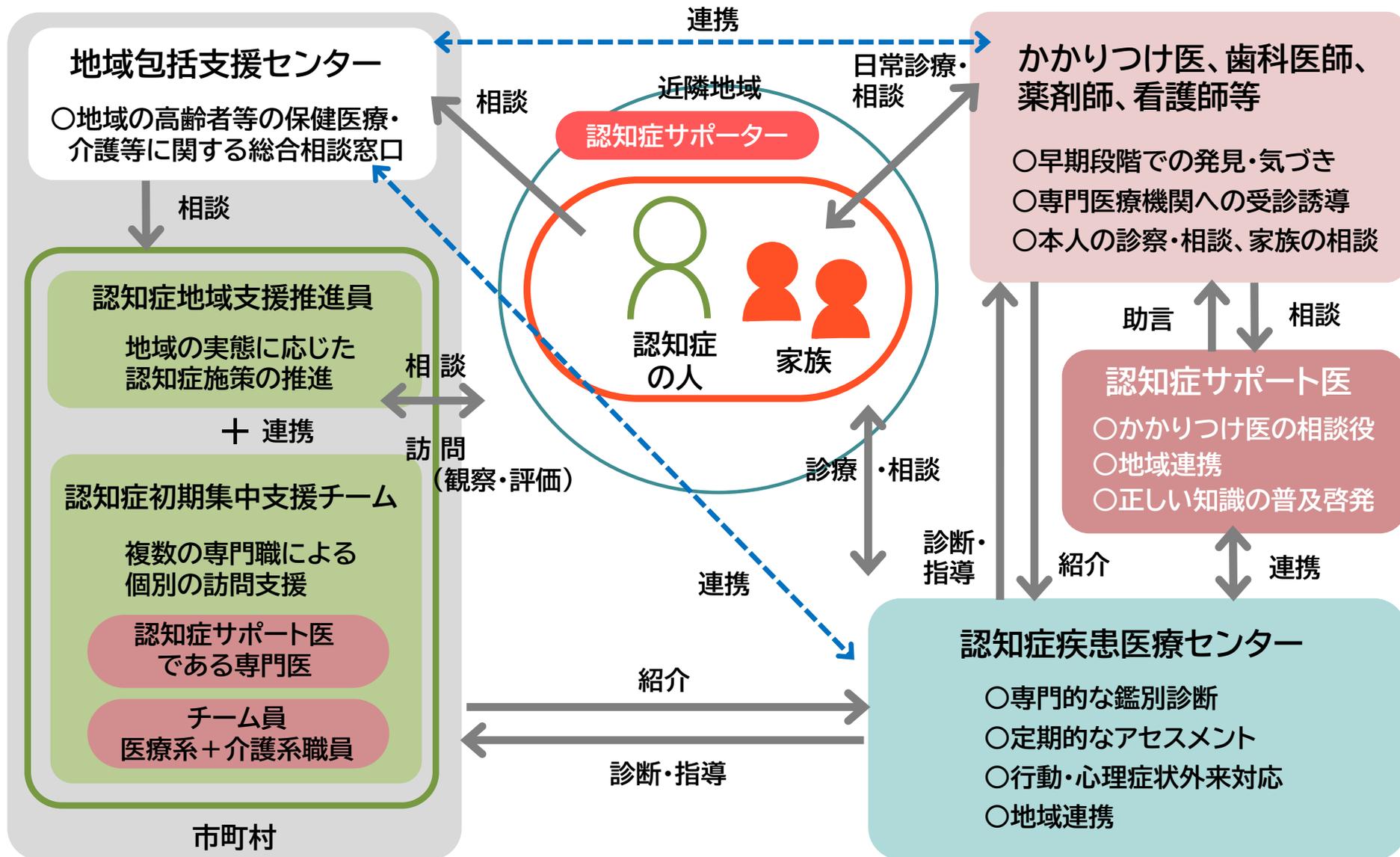
業務量増加・センターごとの役割に応じた人員体制の強化

基幹型・機能強化型センターの位置づけ等、連携強化・効果的運営

運営協議会による評価・PDCAの充実等、継続的な評価・点検

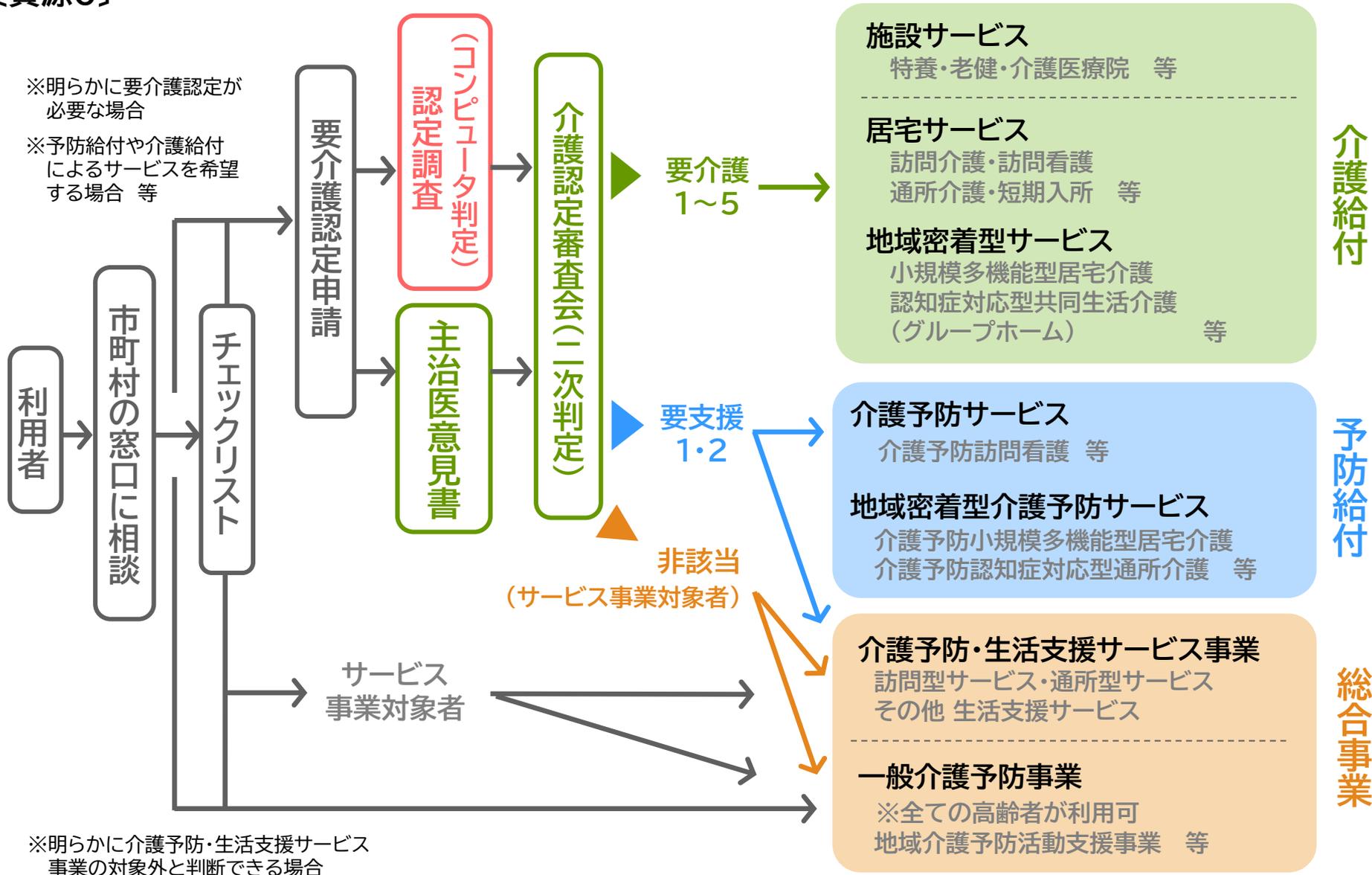
認知症の人を支える様々な仕組み

〔資源5〕



介護保険制度の利用の流れ

〔資源6〕



成年後見制度と日常生活自立支援事業

〔資源7〕

判断能力の不十分な人の日常生活上のニーズを発見し、その判断を支援することにより、要支援者の生活を継続的に支える仕組み

成年後見制度

後見人による本人の意思決定の代行支援
財産管理・身上監護に関する法律行為

日常生活自立支援事業

- i 福祉サービス利用援助
- ii 苦情解決制度利用援助
- iii 住宅改造、日常生活上の消費契約、
行政手続きに関する援助など

日常的金銭管理

できる限り地域で自立した生活を継続していくため、
必要な福祉サービスの利用援助やそれに付随した
日常的な金銭管理等の援助を行う

若年性認知症の人への支援

〔資源8〕

65歳未満で発症する認知症を総じて「若年性認知症」という

- 若年性認知症は 高齢者の認知症とは年齢や置かれている環境や異なるため、本人や家族の心理的・経済的状态等への配慮が必要
- 早期診断・治療、適切な支援や相談機関や支援機関へのつながりが重要
- 若年性認知症コールセンター(全国若年性認知症支援センター)
https://y-ninchisyotel.net/call_center/

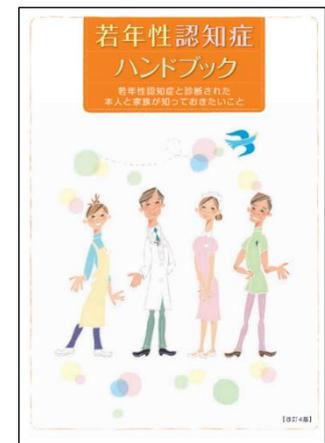
【若年性認知症支援コーディネーターの役割】

- ・ 本人やその家族、職場等からの電話等による相談窓口
- ・ 適切な専門医療へのアクセスと継続の支援
- ・ 利用できる制度・サービスの情報提供
- ・ 関係機関との連絡調整

専門職向け

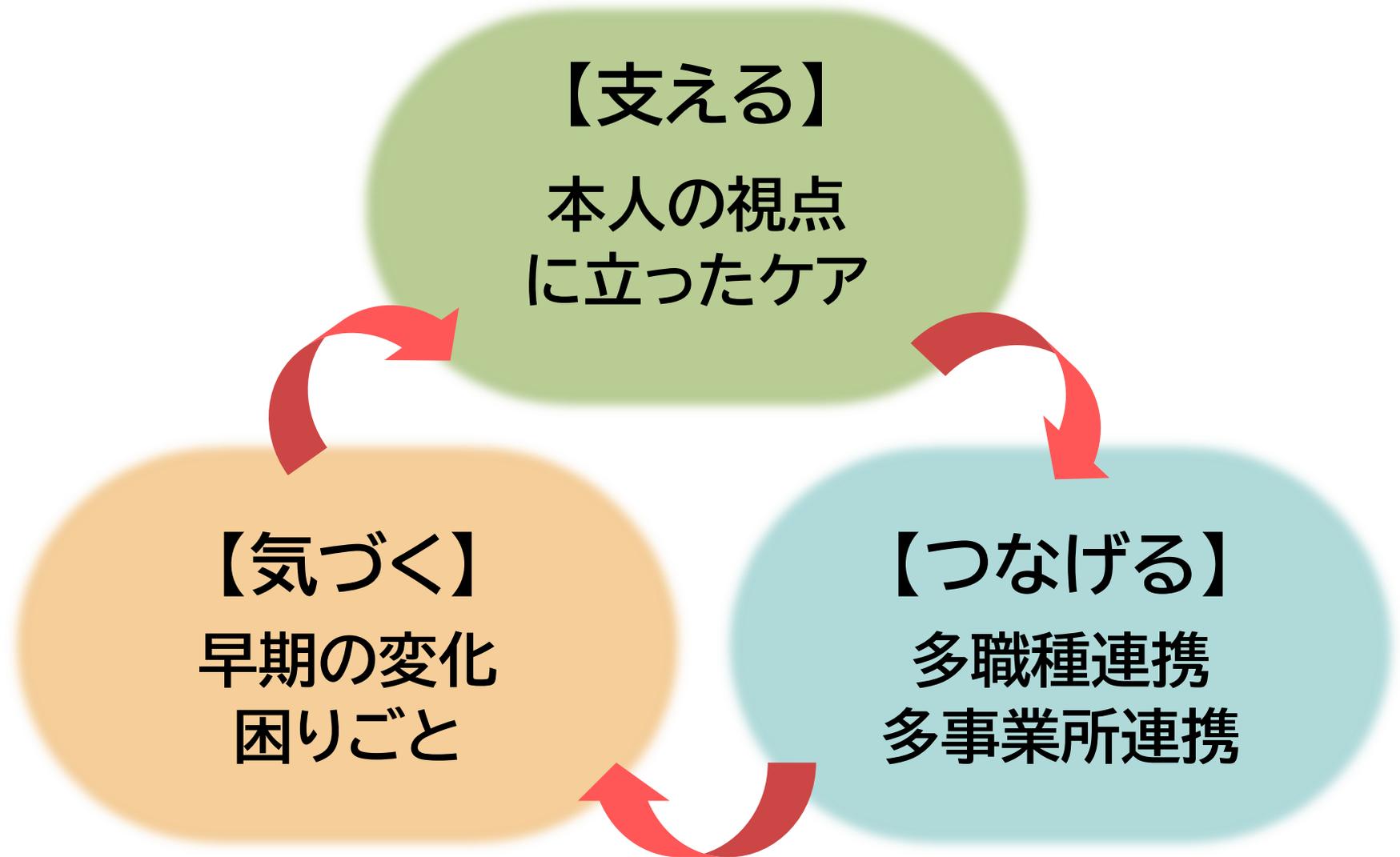


本人・家族向け



修了者への期待と役割（まとめ）

〔資源9〕



私たちは、認知症とともに暮らしています。
日々いろんなことが起き、不安や心配はつきませんが、
いろいろな可能性があることも見えてきました。
一度きりしかない自分の人生をあきらめないで、
希望を持って自分らしく暮らし続けたい。
次に続く人たちが、暗いトンネルに迷い込まずにもっと楽に、
いい人生を送ってほしい。
私たちは、自分たちの体験と意志をもとに
「認知症とともに生きる希望宣言」をします。
この宣言をスタートに、自分も希望を持って暮らしていこうという人、
そしてよりよい社会を一緒につくっていこうという
人の輪が広がることを願っています。

『認知症とともに生きる希望宣言』より

日本認知症本人ワーキンググループ(JDWG) ホームページ(<http://www.jdwg.org/statement/>)
を参照して作成

